

新宮山彦ぐるーぶ第2026回

天台寺門宗(三井寺)大峯奥駈順峯修行再興四十五周年記念

奥駈行を行仙宿で接待

◇実施日：2019年06月10日(月) 雨時々曇り

◇参加者：沖崎吉信、川島 功、濱野兼吉、橋本 梓、中川治平、大江加代子・徳子、畑林秀味・清子、山川治雄、梶野照雄、瀧本昭太郎。 12名。

手元に橋本 梓さんから頂いた総本山園城寺(三井寺)発行の会報「園城寺第12号」があり、その13ページから18ページに「大峯奥駈順峯75摩修行記」が掲載されている。

筆者は天台寺門宗録事、岐阜市不動院住職で、この奥駈行にも参加されている墨崎敬明氏によるものである。以下、原文のまま。園城寺を総本山とする天台寺門宗では、修験道部が中心となつて毎年大峰山(山上ヶ岳)入峯修行を実施しているが、本年は是非奥駈順峯修行をということになった。奥駈順峯修行については「園城寺古記」および「熊野本宮大社入峯記」などの古記録はあるがその後約400年来、絶えて久しく実施されていなかった。本山派伝統のこの順峯修行をこの際、復興したいという福家長吏猥下の固い決意のもとに、その機運が盛り上がってきたのである。

その機運の盛り上がりの裏付けには前田勇一氏が奥駈葉衣会を結成し、南奥駈道の再興に着手したことから、助言、情報、サポートの期待があつたことは当然だろう。奥駈行実施前の4月4日、前田勇一氏が三井寺を訪問し協議したことが「園城寺日誌抄」に記されている。

こうして昭和50年5月21日〜29日の順峯奥駈行実行となつたのである。

順峯奥駈行入峯行程

5/21 (一日目) 入峯者17名が園城寺金堂前に集合、入峯円満祈願。列車で移動、午後熊野三山参拝、本宮泊

5/22 (二日目) 本宮備崎より玉置神社(泊)

5/23 (三日目) 玉置神社〜平治宿(泊)

5/24 (四日目) 平治宿にて休養

5/25 (五日目) 平治宿〜前鬼・小仲坊

5/26 (六日目) 前鬼〜弥山

5/27 (七日目) 弥山〜山上ヶ岳 入宿

5/28 (八日目) 山上ヶ岳〜吉野 東南院入宿

5/29 (九日目) 金峯山寺・蔵王堂にて満行護摩供奉修各地より馳せ参じた山伏修験者は百余名 最後に藤野修験部長の挨拶で大修行に終止符をうった、とある。

新宮山彦ぐるーぶとの関りについて

玉岡相談役のレポートによると「前田勇一氏が提唱された大峯南奥駈道の再興は着実にその目を伸ばしている感じである。去る5月17日には昭和46年に結成された奥駈葉衣会を更に強固なものとするために会則を作り、役員を選んで創立総会を開催して大きく飛躍したが、山歩きの行事とは別に、前田勇一氏の趣旨に賛同して径切拓作業などの南奥駈道への取り組みが盛んに行われるようになった。それにつれて十津川村や本宮町、さらには奈良県、環境庁などの行政機関も乗り出し、その軌道は前途に曙光を見る思いである。

今回、三井寺でも17名の方が大峯の末端、本宮備崎より吉野への全靡を通されるという稀にみる壮大な計画をもって入峯する由、これも前田氏の影響するところ大きく、今後にもつながる意義ある行事と考え協力を約した訳であつた。」

◎ 具体的には平治宿で食事等の接待受諾。

◎ 山彦参加者 玉岡憲明、橋本 梓、戸石二生、小林康泰、前田氏の斡旋で人夫2名(和田、井戸)。

◎ 5/21 入峯前夜、本宮にて玉岡氏より「南奥駈道再興着手といつても、その大半が未整備。玉置神社へ平治宿は距離が長すぎるので、途中上葛川へ下山、森下宅に一泊を進言するが、予定通り正規の峯中修行を実施する、となった。

◎ 平治宿にて食事の荷揚げ、準備などの段取りが完了したが、一行は到着せず、俱利伽羅岳手前くらいまで登り迎え待機するも姿を見せず。夜11時30分、平治宿に引き返す。行仙あたりから下山したかも、と思いい床に着く。夜中1時10分、法螺貝の音で飛び起きた。「苦労様でした」の労いの言葉に感極まった声で「ただいま到着しました！」が返ってきた。玉置山から実に20時間を要し、午前1時30分、やっと到着したのである。

◎ 来着されたのは5名 墨崎敬明、座間光寛、中原円政、津田則明、関 良純の五氏のみだった。

◎ 玉置山を出発後、その距離の長さ、険しさから二度の道迷いで3時間のロスも加わり、古屋の宿で歩行困難者3名が上葛川へ下山、葛川辻でも不調者が出て、協議の後不調者は下山、健脚の5名のみが平治宿を目指した。

◎ この日、少ない睡眠で前鬼までは無理。今日一日はここで休養することを進言、受け入れられる。なお、途中の下山者は前鬼で合流し、以後全員で吉野まで歩き通されたようだ。

◎ 朝8時にお別れする。
朝の静寂を破って法螺の音は峰々に響き渡り、新しく打たれた碑伝の前で声高らかな勤行が唱えられる。5名の方々の七十五靡全行程の修行となることを祈って見送られ、我々は下山の途についた。見送ってくださる5名の方々の法螺の音が長く吹き鳴らされていたことで、お互いの心が通じ合った喜びを感じたのは私だけではなかった。

本年6月10日、行仙宿での接待であるが、事前に天台寺門宗

修験道部長・秋田幸輝氏が、3月11日わざわざ拙宅迄ご挨拶にお運びいただいた。

聞けば玉置山以後の入峯者は10名と少なく、食事なども秋田部長が主に対応すること、我々グループへのサポート依頼は無かった。後日日程表をお送りいただいた。

入峯前日(6月8日)、熊野三山参拝の折、速玉大社にて福家俊彦執事長ご夫妻、福家紀明執事に「ご挨拶。また吉開賢淳師、椎木、今野、浅村の4氏にもご挨拶、玉岡相談役もやってくる。

入峯前の6月7日(金) 久々の一日雨で、降水量も多くて池郷林道の状態が気になる。もし通行不能となれば持経宿泊での食事の運搬が出来なくなり、行仙での提供が必要になることも考えられるので、6月9日(日)に確認に出向く。相変わらずの路面状況であるが、何とか走行できホットする。秋田部長にそのむねを連絡する。

入峯前に秋田部長から電話があり「もし行仙宿で不調者がいた場合、池原あたりで待機しているので下山時に伴ってお届けいただきたい」との連絡を受けた。

日頃我々に対しご理解、ご協力頂いている天台寺門宗・総本山三井寺さんである。奥駈行で行仙宿を通過されるのに何もなし、と言うわけにはいかない。せめてお茶の一杯でもと思ひ呼びかけた。

結果、大阪堺市から梶野、和歌山市から瀧本の両氏をはじめ12名の皆さんが呼応してくださった。

接待提供品；味噌汁、紅茶とお茶、甘夏、菓子類と缶パン。

朝9時過ぎ登山口に集結、10時前には全員小屋に着く。この日は朝から小雨が降り、気温も低くて入峯されている皆さんも大変だろう。氷も持参したが、暖かくて温まるものを接待の主とした。



登山口で



接待準備が一段落



昼食を済ませる

女性陣は行者堂の櫛やお供え物の取り換え。それが終わるとお湯を沸かしてお椀の消毒などに忙しい。男性陣は小屋内整理、玄関西側横にブルーシートを張って即席の雨除けを造る。お堂前に幟を立て、玄関前にベンチなどをセッティングし準備完了。

奥駈行の一行はお昼前に行仙宿到着予定であるが、今日のコンディションでは遅れるだろうとの皆さんの声で到着を待たずに先に昼食とした。

昼食を終えて談笑中に法螺の音が聞こえた。全員お堂前に移動、12時30分少し前だ。程なく奥駈行の皆さんが到着、行者堂に聖徳太子像を寄贈して下さった吉開さんが先頭に近い位置で歩いている、足の運びもしっかりしている。吉開さんは今年80歳となり、45周年の順峯奥駈行の大きな節目であり、参加されたようだ。

奥駈行は何回か行仙宿で接待しているが、先達さんがまず到着して最後尾の方が到着するまで30分、遅い場合は1時間、2時間を要することも多々あったが、今回は同時到着だ。

総勢10名、当るるぶ会友の椎木、今野、浅村の3氏の顔も見える。椎木さんから、ずっと雨で特に笠捨山は土砂降りだったとの話も。



順峯奥駈行一行到着



行者堂で勤行

早速行者堂で勤行され、終了後昼食となり味噌汁等を提供、この雨と寒さの中であり、暖かい味噌汁を皆さんお替わり、中には4杯も飲まれた方がいた。



行者堂で勤行



行仙宿内・玄関前で昼食・休憩



この先、今夜の持経宿まで4〜5時間の道程だ。30分位休息さ
れ集合写真を撮り、どうぞ無事に満行！を祈ってお別れした。

30分ほどで後片付けを終え我々も下山、帰路下北山村役場に
立ち寄り、先日の村長選で再選を果たされた南村長に再選のお祝
いと日頃の支援(栈木丸太約百本寄贈等)のお礼、併せて登山口横
支谷の落石撤去のお願い、浦向道の架橋報告を行った。

前述の昭和50年5月平治宿でのサポートに参加された橋本梓
さんが、今回の45周年奥駈行の接待にも参加された。凄いこと
である。それを皆さんにお話することを失念してしまった。橋
本さんに心よりお詫び申し上げます。



全員で記念写真



奥駈行一行出発



登山口に下山

行動タイム

補給路登山口 09:05→09:55 行仙宿→12:26 奥駈一行勤行・食事・
休憩 13:16→行仙宿 13:40→14:12 補給路登山口 14:20→14:45 下
北山村役場訪問 15:00→解散。

(記：沖崎 写真：梶野、川島)